

川岸工業、設備増強に注力

東西拠点で生産性向上を図る

川岸工業は、生産性向上、メンテナンス、環境配慮をキーワードに、設備の増強や整備に積極的に取り組んでいる。第一次中期経営計画の初年度(2023年10月)以降、トータル約8億2000万円を投じ、各拠点で設備投資を実施しており、今年も、年内をめぐりに筑波工場で養生ボイラーのLPガス化、岡山工場でPL開先加工機設置の設備投資を完了する予定だ。

清時康夫社長は「平常投資は生産性の向上を主要課題として、規模の大小問わず実施し

ている。また、環境にも配慮し、照明のLED化に加えて養生ボイラーのLPガス化などにも取り組む。今後も、品質・価格・スピードなどお客さまへのサービス提供に寄与する生産性向上や、社会貢献につながる環境配慮の投資を進めていきたい」と語る。

開先機導入や環境投資

同社は、投資戦略を「成長投資」と「定常投資」に分けて捉えており、成長投資は、生産性向上に資する新規設備の導入を順次図るほか、次期中期経営計画の目玉となる自由なアイデアを若手社員中心に募り、現在、構想を練っている。定常投資については、各拠点で二点検を頻繁に行い、最新の機器を持つ生産効率と、使用中の機器の補修も含めた維持費用などを勘案し、必要と判断すれば、積

極的に設備の更新を行っている。23年10月以降の主な設備投資として、東京支店管轄では、千葉第一工場および第三工場

で切板穴開けオートボイラー、プレート用シヨットブラストを設置したほか、千葉第一工場で半門型作業クレーンを、筑波工場にはアムスラー式コンクリート万能試験機(3000キリン)を設置した。千葉第一工場では照明を全てLEDに入れ替え

養生ボイラーのLPガス化を進める予定で、環境に配慮した取り組みも推進している。西日本支店管轄では、山口工場、岡山工場、大阪工場

でサフマーツ溶接機システム2電極式を、大阪工場でプレート用シヨットブラスト、形鋼用シヨットブラストを設置した。さらに、今後岡山工場